

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 藤松 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

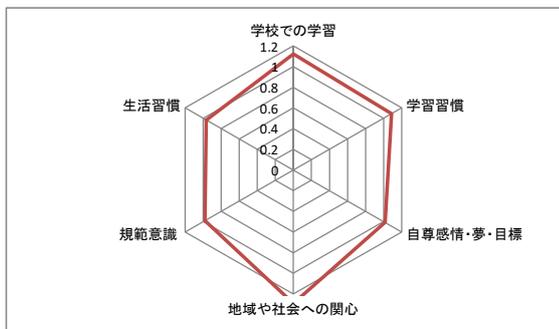
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・無回答の問題がなく、「言語についての知識・理解・技能」を問う問題の正答率が全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・漢字を文の中で正しく使う問題の正答率が全国平均を上回っている。 ・主語と述語との関係などに注意して文を書く問題の正答率が全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	登場人物の心情について、情景描写を基に捉える問題の正答率が、全国平均を下回っている。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・無回答がなく、「書く能力」を問う問題の正答率が全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・推薦する理由を明確に伝える問題の正答率が全国平均を上回っている。 ・伝記を読んで、心に残ったことについて自分の考えをまとめる問題の正答率が全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	・「話す・聞く能力」を問う問題の正答率は全国平均を下回っている。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	・「量と測定」、「図形」に関する知識・理解を問う問題の正答率が全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・混み具合の比べ方や円周率の意味について問う問題の正答率が全国平均を上回っている。 ・円周率の意味についてよく理解している。	
	努力が必要な問題	・1に当たる大きさを数直線上にかく問題の正答率が低い。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	・「図形」に関する知識・理解を問う問題の正答率が全国平均を上回っている。 ・「量と測定」「数量関係」に関して思考力・判断力・表現力の問題の正答率が全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・敷き詰めた模様の中から条件に合う図形を見いだす問題の正答率が全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	・「グラフ」の問題の正答率が全国平均を下回っている。グラフを読み取り考察することに課題がある。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・無回答がなく、記述式の問題でも記述できている。 ・「思考・表現」、「観察・実験の技能」、「知識・理解」に関する問題の正答率が高く、ほぼ全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・「知識・理解」を問う問題の正答率が全国平均を上回っている。 ・「科学的な思考・表現」を問う問題の正答率が全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	・実験結果を分析し、考察して記述することに課題がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が、昨年度(5年生時)の調査より増加した。また、学校の授業以外に普段(月～金)1日当たり1時間以上勉強をする児童の割合も増加した。 ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童の割合が、昨年度の調査より増加した。日々の学習の中で、話し合い活動に取り組んでいる成果が出たと考えられる。 ・自分にはよいところがある、将来の夢がある、と考える児童の割合が高く、自己肯定感の高まりが見られる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・理解の定着を図る補充学習(時間割に設定済み)やこまめな診断テスト(各教科での練習問題やミニテスト)などを継続して行う。 ・自分の考えを深めたり、広げたりするための学級での話し合い活動の更なる充実(力を入れ、学習での話し合い活動の常態化、話し合い形式の多様化、児童の話し合いの技能の向上を図る)。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での生活習慣をチェックする期間を設け記入させる「生活がんばりカード」に継続して取り組み、家庭と連携して子どもを育てる風土づくりを行う。 ・「家庭学習用のノート」及び「生活がんばりカード」での家庭学習の取組を啓発する。 ・家庭での読書を勧め、読書カードや家庭チャレンジハンドブックの活用を強化する。
